

論文作成のポイント

論文を執筆する際には、取り上げるテーマ／問いを明確に記述したうえで、文献等を活用して論じてください。テーマや対象の内容や領域は問いませんが、当該領域を専門としない人にも理解できるよう記述してください。(過去の受賞論文がホームページから閲覧できますので、参考にしてください。) <https://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/service/ug/>

以下のリストは、論文作成の際の参考にさせていただきたい事項をまとめたものです。必ずしも、ここに示す内容を、すべての論文において満たす必要はありません。論文作成を進める際の指針として、参考にしてください。

論 理 性	最初に設定した問題と最後に示す結論が対応している。
	問題設定、仮説とその論証、問題に対する結論という枠組みができています。
	抽象的な一般論を前提とするのではなく、具体的な根拠に基づいて意見を述べています。
	自分の立場・主張と異なる意見に対する反証を示しています。
明 確 さ	同じ論拠を繰り返すのではなく、複数の論拠を示して結論の蓋然性を高めています。
	問題意識がはっきりしている。問題に対する論者の立場・主張があいまいではない。
	文意が明快であり、論点がずれていない。また、前述との矛盾がない。
	適切な改行（パラグラフ・ライティング）によって文章が分かりやすく組み立てられている。
	情報やデータを提示する際、グラフ・表・文章によって分かりやすく整理している。
独 自 性	参考文献・引用文献の内容と自分の意見・考えの記述が書き分けられている。
	テーマに独自性があり、新たな視点から問題を分析・考察している。
	聞き取り、アンケートなどの独自調査を適切な方法で行っている。
	一次資料を収集・整理し、設定したテーマ・問題に基づく独自の分析を行っている。
表 現 力	複数の資料・参考文献を確認し、幅広い知識や多角的な視点に基づいて論述されている。
	設定した問題に対して、先行研究とは異なる独自の見解を示している。
	語句を正しく使用しており、語彙量も豊富である。
	誤字・脱字・変換ミスなどの不備や誤りが少ない、あるいは少ない。
	副詞の呼応、主述の対応など、正しい文法で記述されている。
形 式	流行語・俗語・口語表現を用いず、論文にふさわしい表現で記述されている。
	改行一次下げ、「」『』記号使用など、正しい文章ルールで記述している。
	指定の書式通りに形式が整えられている。
	参考文献、引用書籍・論文の書誌情報を正しく示している。
形 式	孫引き（書籍・論文・Web ページに引用されている文章やデータをそのまま引用すること）や文章の剽窃・盗用・コピーアンドペーストなどのルール違反がなく、適切な引用を行っている。